

田代地区開発における生態系の保全

田代地区のむかし

田代地区は、かつては智満寺へ続く丁仏参道の途中にある盆地状の土地でした。



埋め立て事業

新東名高速道路のトンネル工事で発生した残土の埋め立て地として利用され、今の地形になりました。



自然環境保全意識の高まり

埋め立て事業の一環として実施された調査により、複数の貴重な動植物が見つかりました。特に、クマタカやオオタカのような大型の猛禽類が生息していることが分かったことで、田代地区の自然環境保全の意識が高まりました。

環境保全への配慮と生態系を守る工夫と対応

島田市では、静岡県や各団体・専門家と連携しながら、田代地区の自然環境を守るための工夫を考えてきました。田代地区は、盆地地形とそれに伴う湿潤環境が特徴であり、水域にはモクズガニが生息していることも分かりました。そこで、田代地区の生態系をできる限り保全していくことになりました。

『多様な里山環境の復元』生態系保全のための対応と事例

保全 開発自体の規模の縮小

沢地保全: 伊太谷川源流よりも上流の沢地とその周縁のいくつかは完全に残し、生息していた希少植物を、沢地へ移植しました。

残存緑地: 現在ソーラーパークに囲まれた丘は、周辺への種子拡散の拠点とするために残存緑地として残しました。現在では、常緑広葉樹林(コジイ、アラカシなど)を見ることができます。



低減 野生生物専用設備の設置

多自然型水路: 生物が棲める工夫を水路に施しました。

排水路工の工夫: 一部の水路には登り坂を用意し、小動物の落下による死亡防止を試みました。

グリーンベルト: 道路の上に動物専用のグリーンベルトを整備することで、動物の個体群の分断や動物の交通事故の低減に努めました。特別天然記念物のニホンカモシカをはじめ、キツネやアナグマ、イノシシ、ノウサギなど多様な動物たちがグリーンベルトを利用していることが確認されています。



代替 開発によって失われる自然環境と同様の環境づくり

代替産卵池: 環境プラザの近くにつくった代替産卵池は、毎年20個以上のモリアオガエルの卵塊や、さまざまな両生類や爬虫類、トンボ類が観察できます。野生動物たちにとっても、重要な止水環境として利用されています。

ワンド水路再生: 水路にわざとカーブをつけたり側面に蛇籠を設置することで流れに変化を与え、天然のワンドに近い岸边を作りました。岸辺周辺では、ゲンジボタルやヘイケボタルが毎年確認されています。



～自然と開発の調和～

島田市田代地区
自然環境保全対策
Iモマップ





多様な里山環境の復元をめざして

島田市と常葉大学経営学部の情報学ゼミナールは、田代地区の開発に伴う自然環境の保護に尽力した多くの試みを、「エモい」をキーワードに情報発信したいと考え「田代地区エモマップ」の作成に取り組みました。「エモい」とは、エモーショナルに由来した言葉で、「感情が動かされた状態」「感情が高まって強く訴えかける心の動き」という意味があります。



エモい！
多世代にわたる交流
がここにある

田代の郷

田代地区は、人の所在を明らかにしないために風を揚げない習わしからも、戦国時代の落武者部落として考えられています。徳川時代中期には経済的に豊かになり、元禄年代に現在地に若宮八幡神社を建立したとされています。温暖な気候に恵まれたことで農業も盛んとなり、政治面においても指導的な地区であったとされます。



エモい！
竹や木々、川に囲まれ昔の
情景を思い出させる空間

エモい！
哀愁漂う木漏れ日が
照らす石碑

田代の郷温泉「伊太和里の湯」

梅の里伊太の豊かな自然に囲まれた日帰り天然温泉。自然に囲まれた伊太和里の湯の温かさを感じながら心と体を癒してくれます。



エモい！
山々に囲まれた
秘境の湯

島田ゆめ・みらいパーク

令和2年6月に開園した多目的スポーツ・レクリエーション施設です。トイレ、休憩室、授乳室が完備されています。

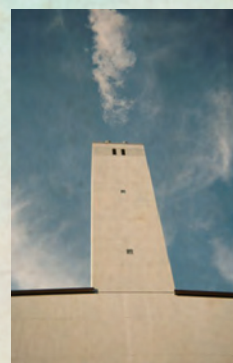


エモい！
自然とテクノロジーの
コントラスト



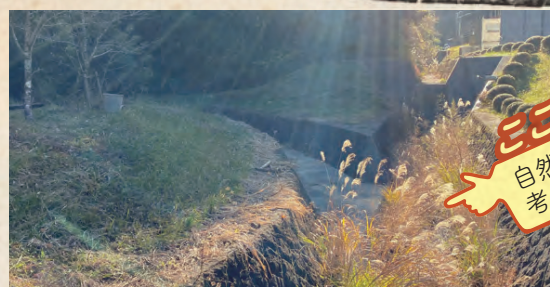
ソーラーパークしまだ

エモい！
循環して回る。資源も
地球も僕たちも



田代環境プラザ

島田市の田代環境プラザでは、資源循環型の社会を目指すため、環境に優しいごみ溶解処理や、堆肥化などを行うリサイクルを行い、島田市民の暮らしを支えています。



エモい！
自然環境との調和を
考え水路を改修



グリーンベルト

森の中に大きな道路を作ると、動物が分断されたり交通事故によって動物の命が失われたりします。そこで、道路の上にグリーンベルトを整備し、動物専用のコリドー（回廊）を作りました。



エモい！
動物の道は
人と自然の調和の証

